

3 園評価書（指標）

令和4年度 園評価書

園番号 5

園名 井川こども園

Ⅰ 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かにたくましく伸びるかわっこ	考えたり・試したりとこんやってみよう！	自分なりの発見を楽しみ、「やってみよう・試してみよう」とする	・様々な遊びや道具、素材を準備してきた。子どもが興味を持った遊びが発展して行く中で、その時々にあった環境を再構成し、「やってみよう・試してみよう」が繰り返していった。また、保育者自身が子どもと一緒に遊んでみることで、遊びの新たな発見や子どもとの関わりを共有することができた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・のびのびと子どもらしさが表れている。 ・子どもが主体的を重んじ、肯定的な言葉かけにより遊びが充実し、深化、発展している様子が見られる。 ・保育教諭があの手この手で教材や環境の準備をしている。 ・少人数であるので、限られた中ではあるが、協力する姿が見られる。今後様々な体験をさせる中で、自然な形で他との交流ができるようになることよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○来年度は子どもが2名となり、1クラスになると予想されるが、年齢に応じた個々の対応を大切にしながら、遊びを準備していく。 ○個々の発達を大切に遊びの準備や生活を身につけて行く中で、2人で一緒に考へたり行動したりする場面を持ち、一緒に体験することが楽しかったり、できるようになったりすることを経験させていく。
		自分で発見したこと、できるようになったことを言葉で表現する	・同年齢がないが、他の学年との関わりが増えていく中で表情や行動だけでなく、言葉にしようとする姿が増えてきている。（年少） ・クラス内で話し合う時間を持つことで、伝えたい内容を言葉で表現したり、伝えたりできるようになった。自分なりの言葉で話を理解してもらえたりすることを楽しめるようになっている。また、学年が違っても、保育者がじっくりと1対1で話を聞く機会を持つようにした。	A	A		
		友だちと力を合わせて目的に向かって達成しようとする	・一緒に遊んだり協力したりして遊ぶことの楽しさを感じている。一人ではできないけれど、みんなで力を合わせたらできるという経験を得られるようにしてきた。 ・クラスが違っても（学年）みんなで力を合わせたらできる遊びの体験を持つようにはしたが、この経験が映る機会をもっとたくさん設けて行きたい。（課題）	B	B		

Ⅱ 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育		(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・一人ひとりの発達段階を意識して取り組める環境作りや時間を設けてきた。 ・それぞれの家庭環境や個人差を踏まえ援助しているが、異年齢混合のクラス運営の中で、片方に寄ってしまうこともあるため、各年齢に合わせた準備が必要であった。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援（保育）計画に沿った形で保育されている。 ・一人ひとりの発達課題に沿って指導し、少人数の子ども同士のかかわりを深めることはとても難しいと思う。まずは、個々の理解を原点に取り組んでほしい。 ・学校と違い、ゆったりとした時間枠の中で遊びが保障されている。その中で、一人ひとりの様子を把握しながら、適切な支援ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○来年度は1クラス運営の中で2名の職員が配置すると思われる。歳児に合わせた、遊びの計画や準備を丁寧に行い、一人一人の発達に見合った遊びの提供を行っている。また、クラス活動を行っている中で、共有できる遊びについては連携を取り、一緒に活動することで相手の気持ちや遊びたい、折り合いをつけたりすることを経験させていく。 ○昨年度の反省の中で、お散歩マップの作成ができていなかったため、今年度は年度初めにお散歩計画を作成し、井川の自然について子どもと一緒に探ってみたい。
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・異年齢で過ごす時間を大切にし、友だちと遊ぶ楽しさを十分に感じられるように心がけてきたが、個別に合わせた援助、言葉かけは必要だった。 ・園での生活リズムを一定にすることで見通しを持ち安心して過ごせるようにしている。少人数保育のため、一人ひとりの様子や体調に合わせて動きやペースよく進められるようにした。	B	B		
		(3)環境を通して行う教育及び保育	子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、十分に遊び、繰り返し楽しめる時間と場所を確保している	A	B		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	ヒヤリハット場面や日々の施設安全点検を行い職員全体で周知している	・年数回、ヒヤリハットの事例を取った。読み合わせを行い周知し、共通認識が持てるようにした。 ・会議や口頭で危険な箇所、行動を職員間で周知してきたので、大きなケガや事故などは発生していない。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康面、安全面が充実してこそより良い保育へつながるので、家庭との連携は根気よく行い繋ぎたい。 ・家庭の理解と努力が必要であり難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒヤリハットのメモを取る習慣をつけ、ヒヤリハット地図を作成し危険な場所や、保育中に配慮すべきことなどを記入していく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	感染症対策の基本方針を保護者と共有し、手洗い・咳エチケットなどの一般感染対策を行っている	・咳や鼻水がある中でも登園することがあるのは、保護者と方針の共有が不足している点だと感じる。課から配布される手紙を確認し、定期的に変わる登園基準（解熱後〇〇時間）の把握を徹底したい。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・たった3人の子どものみであるが、一人ひとりについて深く意見を交わしながらより良い支援をしようとしている。 ・学校でも組織をより良く活性化させていくことは難しい。日々業務に追われ、連携を取るための時間の確保が課題かもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に変わる感染症登園基準を職員が把握するために、目につく場所に常に新しい基準が書かれている書面を張っておき、保護者への対応ができるようにしておく。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達にあった指導計画を作成し、園全体で共有していく	・加配はしていないが、一人ひとりの子どもの発達、遊びの様子を会議で伝え合い、クラス担任だけでなく全職員が共有し、援助の方法や対応が同じできるようにしている。 ・各学年1人ずつしかいないが、学年ごとの月案、週案を作り全職員で情報を共有している。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、学校とこども園との連携が図ることができたので、次年度に向けて研修面でも連携を図っていききたいので、あえてBとした。 ・少人数の子どもにとって、担任の存在は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分掌担当の配分の見直しを行う。職員は少ないが、園の運営はこの園でも同じである。偏りがないように、業務内容を職員間で話し合い検討する。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌担当者が中心となり、企画、提案、作業分担が行われ、見直しを持ち早めに準備が進められている	・各分掌が企画し、準備をしてきたが、行事後のドキュメンテーションなども丁寧な制作ができたのではないかと反省する。 ・業務内容に対して担当者は見直しを持ち準備を行ってきたが、職員同士の連携をしっかりと行い準備内容を共有していないことがあった。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、学校とこども園との連携が図ることができたので、あえてBとした。 ・少人数の子どもにとって、担任の存在は大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月の園内研修で、各々が出した研修報告を行う中で、日々の保育で活かし実践するための話し合いを設けていく。（報告だけでなく、どこで現場で活かせるかなど） ○今年度は小中学校との連携がより深くなったことを踏まえ、一緒に考える研修計画を立て、これから3年間続けて就学していく子どもたちを同じ方向性をもって教育保育を行っていく。 ・指導方法についての話し合い ・学校の職員の実習 ・保育教諭の授業の見学 他
6 研修	(1)研修体制の充実	教育目標や重点目標に向けて、具体的な手立てを共通理解し、保育実践と研究を重ねている	・園内研修や月の反省の中で、研修テーマに対する手立てはどうだったか振り返り、意見を出し合い課題や今後の方針を明確にしてきた。 ・重点目標や研修テーマをもとに、指導計画を作り保育実践を行った。園では、公開保育が年に1度のため、保育研究を意識的に行う必要があった。（例：参加した研修の報告共有）	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しめる環境づくりを力を入れてくれているのがよくわかる。井川は特に四季や行事に取り組みやすい状況なので活かしてほしい。 ・（保育者自身が楽しい保育をしてほしい） ・今年度の成果を踏まえ、次年度はさらに小中学校との連携を深めていきたいと願っている。 ・他園との交流は大切であるが、身近な関わりも大切にしたい。 ・日常的に地域の方々、足を運びやすいような場を多く持っている。 ・渡船場が温かい雰囲気になっており良かった。 ・子どもを思う気持ちが高めより精進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は昨年度以上に交流を行い、互いの指導方針を理解するつながりを持ってきた。来年度は、今年度の交流をさらに深め、普段の生活や授業をみるなど子どもたちが就学に向けて、期待が持てる関係作りを行っていく。（年間計画の中で、交流できる行事や企画を立てていく）
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが自ら選択し、じっくりと遊べる環境作りをしている	・子どもの興味関心、保育者の願いを考慮し、玩具の内容や園庭倉庫内の配置を変え整理するなど、安全に自分で玩具を選び遊びだせるよう環境整備を行ってきた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しめる環境づくりを力を入れてくれているのがよくわかる。井川は特に四季や行事に取り組みやすい状況なので活かしてほしい。 ・（保育者自身が楽しい保育をしてほしい） ・今年度の成果を踏まえ、次年度はさらに小中学校との連携を深めていきたいと願っている。 ・他園との交流は大切であるが、身近な関わりも大切にしたい。 ・日常的に地域の方々、足を運びやすいような場を多く持っている。 ・渡船場が温かい雰囲気になっており良かった。 ・子どもを思う気持ちが高めより精進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○園内研修の中で、遊びの紹介や素材研究などを計画的に行っていく。（各々が得意な遊びや、やったことのある遊びなどの紹介。どの場面で行うのが良いか、など実際の場面を想定して） ○ドキュメンテーションの在り方を検討し、計画的に作成していく。（行事・季節ごとの子どもたちの成長など）
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者と保育内容や子どもの育ちを共有できるよう、お便りやドキュメンテーションを使って発信し、子どもの育ちを伝え、子育てを支えている	・日々のクラスボードで、子どもの様子をわかりやすく伝え（写真や作品を付けるなど）子どもの成長した姿、エピソードなどを掲示し保護者と共有してきた。クラスだよりは写真を使って子どもの姿を可視化し、表情や周りの様子がわかるように工夫した。 ・行事や季節ごと（春から夏・夏から秋、秋から冬）のドキュメンテーションを作成し、子どもの成長した姿、内容などコメントを付け発信した。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しめる環境づくりを力を入れてくれているのがよくわかる。井川は特に四季や行事に取り組みやすい状況なので活かしてほしい。 ・（保育者自身が楽しい保育をしてほしい） ・今年度の成果を踏まえ、次年度はさらに小中学校との連携を深めていきたいと願っている。 ・他園との交流は大切であるが、身近な関わりも大切にしたい。 ・日常的に地域の方々、足を運びやすいような場を多く持っている。 ・渡船場が温かい雰囲気になっており良かった。 ・子どもを思う気持ちが高めより精進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は昨年度以上に交流を行い、互いの指導方針を理解するつながりを持ってきた。来年度は、今年度の交流をさらに深め、普段の生活や授業をみるなど子どもたちが就学に向けて、期待が持てる関係作りを行っていく。（年間計画の中で、交流できる行事や企画を立てていく）
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	井川小・中学校や近隣園、地域との交流を計画し情報交換を行っている	・小中学校との交流を定期的に行ってきた。（給食会食・運動会・プール使用・果物狩りなど）今年度は昨年度以上に交流を深め、子どもたちが授業と一緒に受けたたり、学校の先生がこども園へ実習に来たりして、こども園での指導の方法など実感をみてもらえた。 ・近隣園交流として清沢こども園の子どもたちが来園したが、コロナ感染のため休園となってしまったので井川探検をして帰っていった。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果を踏まえ、次年度はさらに小中学校との連携を深めていきたいと願っている。 ・他園との交流は大切であるが、身近な関わりも大切にしたい。 ・日常的に地域の方々、足を運びやすいような場を多く持っている。 ・渡船場が温かい雰囲気になっており良かった。 ・子どもを思う気持ちが高めより精進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との交流を来年度もつなげられるように、渡船場の季節の装飾は続けていく。子どもたちの作品を入れることで、園の活動を知ってもらえる機会にしていく。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	豊かな体験が得られるように、地域の様々な人との関わる機会を大切にしている	・地域の観光拠点、井川湖渡船場事務所の季節ごとの装飾を子どもの作品を使って飾りつけし、地域へこども園の活動を知ってもらった。 ・月1回のアイセン訪問や毎週1回のISC活動で、地域の方々と交流しながらいろいろな体験をさせてもらっている。また、園行事に地域の方々にも協力を依頼すると快く受けていただき、地域全体で子どもたちを見守り協力してもらっている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の成果を踏まえ、次年度はさらに小中学校との連携を深めていきたいと願っている。 ・他園との交流は大切であるが、身近な関わりも大切にしたい。 ・日常的に地域の方々、足を運びやすいような場を多く持っている。 ・渡船場が温かい雰囲気になっており良かった。 ・子どもを思う気持ちが高めより精進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○信頼される園づくりについて、職員一人ひとりが市役所職員であることを自覚し、地域の方々との関わりを持っていく。